

# 飯舘村長泥地区環境再生事業に係る技術検討ワーキンググループ（第1回） 議事要旨

日 時	平成 31 年 1 月 18 日（金） 13:30～15:30			
場 所	飯舘村役場第一会議室			
出席者	委 員	飯舘村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飯舘村長泥行政区</li> <li>・ 飯舘村農業有識者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳴原 清三</li> <li>菅野 元一</li> </ul>
		学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京大学大学院</li> <li>・ NPO放射線安全フォーラム 理事</li> <li>・ 農業・食品作業技術総合研究機構</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根本 圭介</li> <li>多田 順一郎</li> <li>万福 裕造</li> </ul>
	事務局	飯舘村 環境省 三菱総合研究所		
議事要旨	<p>○事務局より飯舘村長泥地区環境再生事業に係る技術検討ワーキンググループ設置要綱案について説明を行い、内容については承認された。</p> <p>○事務局より「試験栽培について」の説明を行った。質疑応答により、以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験栽培の報告は、ハウス栽培に限定したものではなく、ポット栽培も含めて、実施していることすべてを報告すること。</li> <li>・ 長泥地区周辺の農業従事者が希望する作目の実証を検討すること。具体的な作目、特に可食物については、飯舘村と調整すること。</li> <li>・ 試験栽培のアウトプット（最終成果）についてあらかじめ環境省と受託者で認識共有しておいた方がよい。</li> <li>・ 今後のスケジュールを明らかにした資料を提示すべき。</li> <li>・ ハウス栽培に協力して下さる長泥地区推薦の栽培支援員に対し、作業の目的、各作業項目（室温、地温、Ph などの土壌の状態）の目標レベル等について説明し、必要に応じて栽培支援員からのアドバイスを受けられるよう進めること。</li> <li>・ 生育状況を確認した上で、セシウムの移行係数の測定を行うこと。</li> <li>・ セシウムの移行は作物の幼少期ほど進行が速いと考えられていることを踏まえ、サンプル数に余力があれば、例えば、生育しきれていない段階での移行係数の測定も検討すること。</li> </ul> <p>○事務局より「実証事業用再生資材化施設について」の説明を行った。質疑応答により、以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 盛土をするための設計基準を満足させるための資材化であることを認識すること。各工程はこれに則った作業であることも合わせて認識すること。</li> <li>・ 盛土に使用する再生資材の放射能濃度は 5,000Bq/kg 以下のみであることを改めて認識すること。</li> <li>・ 小規模テント、大規模テントの機能と役割について説明すること。</li> <li>・ 試験栽培の作付けは 6 月を予定していることから、それに間に合うよう露地栽培用の盛土を整備すること。</li> <li>・ 濃度分別機については、一般の方にも理解できるような説明資料を検討すること。</li> </ul> <p>○その他、次回のワーキンググループ開催に向け、以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回程度の定期的な実施も視野に入れつつ、議論する内容と作業スパンを考慮した開催スケジュールを検討すること。</li> <li>・ 本事業の圃場計画についても、ワーキンググループで議論すること。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>			